

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

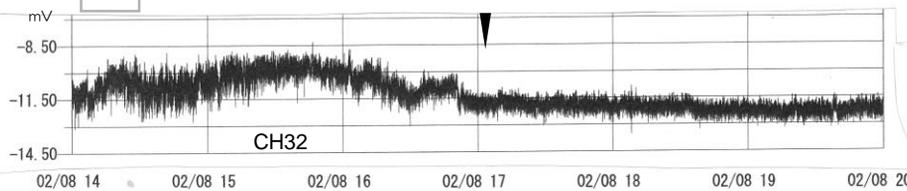
Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

### No1778長期継続変動 CH32特異変動 2/8.7 静穏化観測 対応地震発生推定 2月13日 (2/13 or 2/14 の可能性高い)

図1 正常基線に静穏化 2/8.7

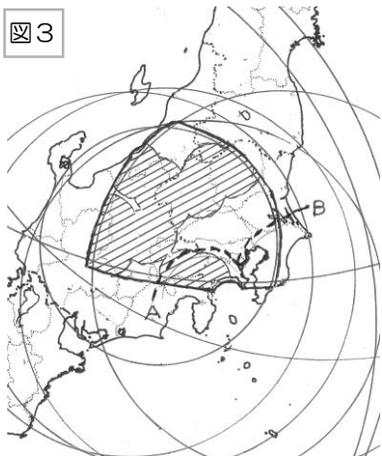
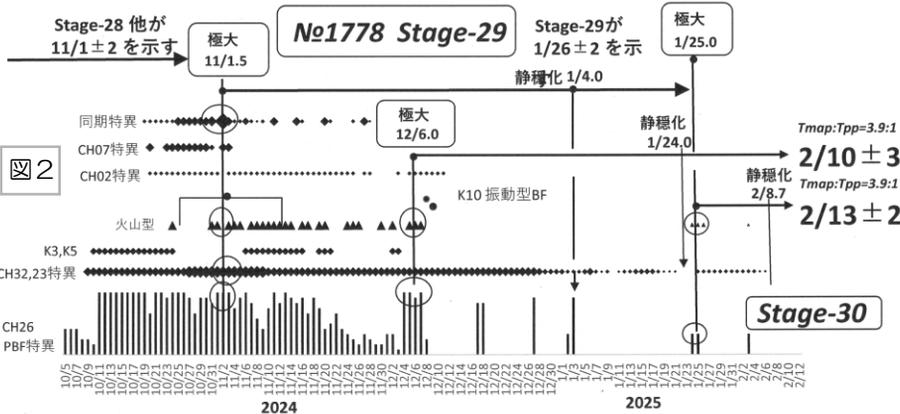


◆図1 波形のとおり、本日2/8の夕刻17時頃に八ヶ岳のCH32特異変動が静穏化し、正常基線に戻りました。今夜20時までの基線で、まだ正常基線に静穏化してから3時間しか経過していませんが、静穏化の可能性有。

◆基線幅も正常基線幅で、特異変動も認められませんが、小さな変動があります。但し、今まで継続していた特異変動は一切認められませんが、2/8.7を1/25.0極大に対する静穏化と認識します。

◆1/25.0極大～静穏化2/8.7の関係を、経験則 Tmap:Tpp=3.9:1 で計算しますと2/13±2発生の可能性となりますTmapが短いため誤差は小さいと思われます。2/12の可能性は低く、2/13又は2/14発生の可能性が考えやすい状況。

◆30年の観測歴の中で16年7ヶ月継続した前兆変動は最長です。初めての体験です。従って推定が正しいか否かは不明な点もあります。実際と推定が異なる場合はどうかお許しください。



●推定領域：図3の太線領域内＝大枠推定領域  
図4斜線域＝可能性が考えやすい推定領域  
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または  
複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等  
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkm  
が合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性  
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい

●推定時期：2月13日 (2/13 or 2/14 の可能性高い) 誤差：2/13～2/15)  
※今後の観測で修正が必要な場合は続報で修正させて頂きます

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震  
○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)

A～B弧線以南の可能性は低い